



問

環境自治体会議「ちっこ会議」とは…？

答

大木町は環境の町！ 全国トップランナーをめざす！！

問

5月に開催される環境自治体会議の概要。

町長 環境自治体会議は、環境をテーマにして自治体・議会・NPOなどの団体、企業・研究者、市民が一堂に集う大会としては、国内では最大規模の集会成为る。

全国との交流を通じ、これまでの町の環境政策を踏まえて、更に前進させる大きな節目にしたい。

本町は環境の町として、全国のトップランナーを目指し、環境自治体会議「ちっこ会議」の成功を機に住民の皆さんとの協働をさらに広げ、循環のまちづくりに取り組んでいきたい。

問

環境の町、循環の町として、合併浄化槽の設置普及・菜の花プロジェクト・くるるん・道の駅など今後の方向性。

町長 本町の環境の取組みは、全国の中でも注目されているが、まだまだこれから取り

組むべき課題も多く抱えている。

なかでも、地域農業の活性化や住民の皆さんに安全な食を提供するなど地産地消の中核施設として整備を進めている道の駅、農産物直売所、地産地消レストランなど、くるるん2期事業を成功させることが重要である。

特に周辺農地には、環境にやさしい野菜作りのモデルを作り、町全体に普及させることで、農家の収入を増やし、収穫体験など消費者との交流の場を作ること、農業の活性化につなげたい。

また、田んぼに菜の花を植えて、町づくりイベントを開催し、菜種を収穫して「環のかおり」という大木町オリジナル菜種油として、新たな特産物も農家の頑張りで生み出された。更に、くるるんの近くに新しく合鴨による米の栽培がはじまり「あいがもめぐみ」という新しいブランドが登場。少しずつではあるが、持続可能な町づくりのうねりが着実に広がっている。

本町の最大の特徴である掘割の再生も重要な課題である。掘割の水質改善のためには合併処理浄化槽の普及や適正管理が欠かせない。

現在、個人設置に補助金を交付し推進しており、また、尿だけを処理する単独浄化槽から合併浄化槽への転換を促進するために、近隣自治体に先駆けて上乘せ補助金を導入しているが、平成21年度第1次補正において、低炭素社会対応型浄化槽集中整備事業により国からの助成金が1/3から1/2にかさ上げされたこと等に伴い、

住民に還元することも含めて検討しなければならぬ。また、昨年3月には、大木町もつたいたい宣言を議会の全会一致で可決いただいたが、この目標を町民の皆さんと共有し、取組みを進めていく必要がある。11月には、ごみ減量化推進委員会の呼びかけで、地域住民や団体・事業者・行政が協力し、レジ袋削減のための取組みを行った。39の事業者と29の町民

団体が即座に呼びかけに応じて下さった。

ごみを出さない町づくりに向けた取り組みの第一歩だと思ふ。

次世代につけを残さない、持続可能な循環のまちづくりを目指し、町民の皆さんとの協働を進めながら、全国のトップランナーを目指していきたい。

問

環境自治体会議「ちっこ会議」が筑後市、大木町、大木町の2市1町での共同開催になった経緯。

環境課長 環境自治体会議は、現在、環境政策に積極的に取り組む全国57の自治体で構成されており、福岡県では本町を含め5自治体が入っている。環境をテーマにした集会としては全国最大規模である。

平成22年度の全国大会は、大木町、筑後市、大川市の共催による環境自治体会議「ちっこ会議」として開催され、全国からの参加者を含め、延